

令和7年度文部科学省委託事業
「大学における医療人養成の在り方に
関する調査研究委託事業」

「診療参加型臨床実習の充実を目的とした
指導医養成プログラムの開発と展開」

令和7年度事業成果報告書

令和8年3月

事業責任者

一般社団法人 日本医学教育評価機構

奈良 信雄

本報告書は、文部科学省の大学改革推進委託費による委託業務として、一般社団法人日本医学教育評価機構 寺野 彰が実施した令和7年度大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業（臨床実習指導医養成のための調査研究）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

緒 言

本報告書の刊行にあたって

大学医学部の主な使命は、国民から信頼される良質な医師を養成して国民の健康維持・増進に貢献するとともに、今後の医学・医療の向上に寄与する研究活動を展開して成果を上げることにある。これらの使命を達成するために、各医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムを組み入れた教育プログラムを実施し、医学生の教育を行っている。

日本医学教育評価機構（Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME）は、2015年発足以来、世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education）の国際基準に基づいて各医学部の教育プログラム実施状況を評価し、国際基準に適合しているかどうか認定してきた。その目的は、各医学部で実践されている特色ある取り組みや成果を確認し、一方では改善が求められる事項を取り上げ、当該医学部に助言するとともに評価結果を公表し、全国レベルでの医学部教育を改善し、向上させることにある。2024年までに全82医学部の評価を行って認定し、さらに2巡目の評価が進行中である。

JACME の評価事業を通じて、わが国における医学部教育の長所・短所が抽出された。

たとえば、長所として、それぞれの医学部が目指す使命を明確にし、かつアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを設定して、学生に卒業時点で求められる資質・能力（コンピテンス、コンピテンシー）を確実に修得できるようにカリキュラムが構築され、教育が実践されている。多様な入学者選抜法で医師として将来が嘱望できる優秀な学生を入学させ、教員が情熱を傾けて指導している点もあげられる。各医学部における環境や背景を考慮して、総合医療や地域医療教育の充実を図ったり、研究室配属で学生の研究マインド涵養に積極的に努めたり、国際交流を積極的に推進していることなども我が国の医学部教育の優れた点としてあげられる。

一方で、卒後研修に直結できるだけの資質・能力を十分に涵養するための診療参加型臨床実習の充実、学生に対する形成的評価、教育活動全般に関する学生の積極的参加、教育プログラムの評価に基づく教育プログラム開発などの点に課題が残されている。

とくに臨床実習は、アメリカやカナダ等に比べて、実習期間が短く、かつ実習内容も見学型が多い部分もあり、真に“診療参加型”とよべるような教育体系が十分に達成されているとはいえない。また、臨床実習現場での学生評価にも課題が残されている。

本事業では、とくに診療参加型臨床実習の充実を目指し、令和6年度～7年度にかけて調査研究を行った。国内外の医学部における優れた診療参加型臨床実習を好事例として調査して、我が国の医学部において望まれる診療参加型臨床実習を提案するとともに、臨床実習に大きな役割を果たす臨床実習指導医のあり方について考察を進めた。

本報告書では、令和7年度に実施した国内外の調査結果をもとに、令和6年度の調査結果とも併せて報告する。

目次

緒言 本報告書の刊行にあたって	1
第1章 事業の概要	
1. 事業の目的	3
2. 事業の期間	5
3. 本事業の実施体制	5
4. 事業実施計画	5
第2章 調査実施報告	
A. 国内調査報告	7
I. 地域医療臨床実習	7
II. 外科臨床実習	35
III. 産科婦人科臨床実習	44
IV. 国内医学部、関連病医院訪問調査の総括	48
B. 海外調査報告	49
I. Thomas Jefferson 大学訪問	50
II. NBME 訪問	62
III. Intealth 訪問	72
第3章 臨床実習指導医講習会（事例）	86
1. 臨床研修指導医講習会の要件	86
2. 東京科学大学病院指導医講習会と臨床実習指導医講習会の合同開催	88
第4章 指導医の実績評価	105
第5章 公開国際シンポジウム	107
1. A Historical Perspective on Clinical Training in U.S. Medical Education	108
2. 日本における診療参加型臨床実習の現状と課題：とくに指導医養成の在り方	115
3. 臨床実習における臨床現場での学生評価、教員の指導実績評価	125
4. Clinical clerkship curriculum and outcome evaluation in a medical school in the US	138
5. Faculty development for clinical skill teaching	154
第6章 診療参加型臨床実習のあり方についての考察	170
1. 診療参加型臨床実習の目的	170
2. 臨床実習期間	170
3. 臨床実習内容	171
4. 臨床実習指導体制	172
5. 学生評価	172
第7章 臨床実習指導医資格認定制度(案)	174
第8章 診療参加型臨床実習の改善に向けた提言	176
結語	177

第1章 事業の概要

1. 事業の目的

臨床能力に優れ、国民から信頼される良質の医師を養成して社会に輩出するためには、充実した診療参加型臨床実習の実践が不可欠である。しかしながら、日本医学教育評価機構（JACME）が全82医学部を対象とした医学教育評価の結果をみると、充実した診療参加型臨床実習が実践されて成果をあげている医学部は必ずしも多くないことが指摘される（奈良信雄：「日本医学教育評価機構による医学教育評価－1巡目評価の総括と今後の展開」、医学教育56巻2025年、125～132）。

わが国で診療参加型臨床実習が十分に根付いていない要因には下記のようなものが考えられる。

- ① 旧来の見学型臨床実習を踏襲してきた医学部および臨床実習施設が、診療参加型臨床実習への転換に対応できにくい。
- ② 指導医の診療参加型臨床実習に対する理解が十分でない。
- ③ 指導医数が不足している。
- ④ 学生の診療参加型臨床実習への参加が消極的である。
- ⑤ 患者の協力が得られにくい。
- ⑥ 現在の医療では必ずしもチーム医療体制が十分には整備されていない。
- ⑦ 医学生の医行為実施に対する病院や指導医の法的理解が十分でない。
- ⑧ 学生が使用できる電子カルテ端末の不足など、診療参加型臨床実習の実施に適した施設・設備が十分には整備されていない。
- ⑨ 大学医学部として診療参加型臨床実習の意義と必要性についての認識の共有が十分ではない。
- ⑩ 教員・指導医の負担が大きく、かつ教育活動が適正に評価されていない。

これらの課題の多くは、実習指導医が診療参加型臨床実習の目的・意義・内容・成果を十分に理解した上で臨床実習を指導しさえすれば、解決できる可能性がある。臨床実習指導医が発想を転換し、見学型主体の臨床実習ではなく、診療参加型臨床実習を積極的に推進すれば、臨床実習の成果は向上し、臨床能力に優れ、国民から信頼される医師を輩出できるものと思われる。

診療参加型臨床実習を導入し、実践することには指導医や医療スタッフへの負担が大きい。しかし、ひとたび診療参加型臨床実習が軌道に乗れば、医学生の臨床能力が確実に向上し、医療チームの一員として医学生が医療業務を分担して遂行できることになり、結果的には診療に伴う指導医や医療スタッフの負担軽減にもつながって「医師の働き方改革」にも対応できる点が少なくないと考えられる。

したがって、診療参加型臨床実習を指導する指導医の資質・能力を高めることが、わが国における診療参加型臨床実習を実質化して成果をあげるための有効かつ喫緊の解決策と考

えられる。

本委託事業では、国内外における診療参加型臨床実習の優れた取組を調査して紹介し、指導の立場にある医学部教員や臨床実習施設の指導医、さらには臨床実習を支援する医療スタッフや職員に対する養成の在り方を提案して、診療参加型臨床実習を充実させて臨床能力に秀でた医師を輩出することを目的とする。

令和6年度の事業では、以下のような調査研究を行った。

- ① 全国医学部の6年生と指導医を対象に、医学部在籍6年間でどの程度の医行為（診療行為）が実施されているか、悉皆調査を行った。その結果、医療面接、身体診察などの非侵襲的な医行為の実施率は高いが、採血を始めとした侵襲性がある医行為の実施率は低いことが確認された。
- ② 大学医学部、学外実習病院、地域医療施設を訪問し、臨床実習の実施状況を調査し、指導医、学生、研修医から臨床実習の現状と課題を確認した。
- ③ 標準模擬患者などを対象に、臨床実習で協力が可能な医行為について調査を行った。
- ④ 診療参加型臨床実習がクリニカルクラークシップとして実践されて成果を上げているアメリカ（カリフォルニア大学サンフランシスコ校）とカナダ（マギル大学）の臨床実習の内容、指導医の養成について、オンライン会議ないし現地訪問で調査研究した。また、アメリカで教員として臨床実習の指導経験がある国内医学部教授と面談し、アメリカにおける診療参加型臨床実習の具体的な内容を聞き取り調査した。

以上の調査研究活動を通じて、わが国医学部の診療参加型臨床実習をさらに充実させるためには、

- ① 実践的な診療参加型臨床実習の全医学部への普及と啓発
- ② 臨床実習指導医の養成と資格認定

の課題にさらに取り組み、解決することが必要と考えられた。

そこで、令和7年度の事業では、海外医学部、国内の医学部・関連病院での診療参加型臨床実習が充実している好事例を解析し、望ましい診療参加型臨床実習プログラムと指導医の在り方について調査研究する。

国内医学部・関連病院における臨床実習については、診療参加型の臨床実習が比較的難しいとされる外科、産婦人科の優れた取組、さらに地域医療実習の優れた取組について調査を行う。また、アメリカの医学部におけるクリニカルクラークシップの内容および学生評価、アメリカ医師国家試験および外国医学部出身者の受け入れなどについて調査する。

これらの調査内容を踏まえ、公開国際シンポジウムを開催して、診療参加型臨床実習の在り方、臨床実習指導医の養成等に関して公開討論する。

以上の活動を通じて指導能力に優れた臨床実習指導医を養成して全国医学部における診療参加型臨床実習の充実を推進し、もって医学部教育の質を向上させて臨床能力に優れた医師の養成を目指す。そして、国民の健康維持、増進に貢献し、社会からの信頼を得るようにする。

2. 事業の期間

令和7年5月13日～令和8年3月31日

3. 本事業の実施体制

事業責任者	日本医学教育評価機構常勤理事	奈良信雄
研究分担者	大学改革支援・学位授与機構特任教授	鈴木利哉
	順天堂大学医学部教授	富木裕一
	東京慈恵会医科大学医学部教授	中村真理子
	東京科学大学医学部教授	山脇正永

4. 事業実施計画

1) 国内医学部における診療参加型臨床実習の調査研究

令和6年度の調査を拡大し、さらに充実した診療参加型臨床実習を実践している医学部、学外関連病院を訪問調査し、学生、研修医、教職員から聞き取り調査を行って、診療参加型実習の現況、指導医養成法、課題、指導医の業績評価等を調査研究する。とくに診療参加型の臨床実習が難しく、見学型の臨床実習が主体になりがちとされる外科、産科婦人科における診療参加型臨床実習の優れた取組を調査する。また、少子超高齢社会を反映して課題になっている地域医療の充実を目指して実施される臨床実習についても調査する。

2) 臨床実習における指導医のあり方、資格認定に関わる調査研究

臨床実習から臨床研修につながるシームレスな医師養成では、“屋根瓦式”の臨床実習が重要になる。屋根瓦式で重要な役目を果たすのは研修医、専攻医である。このため、臨床実習における研修医、専攻医の関与について、国内医学部、関連病院を訪問調査して確認し、指導医のあり方について解析する。さらに臨床実習を統轄する立場としての医長、診療科長、教授など責任者の役割についても明確にする。

また、教員・指導医の臨床実習への参加度が実績として適正に評価されるように、臨床実習の指導実績評価のための評価シートを作成する。具体的には卒後 EPOC 及び CC-EPOC に「教員の指導ログ集計」を実装し、入力された指導医のデータ、手技・医行為の指導ログ、指導医単位の教育実績（卒前卒後の紐づけ）を解析し、指導医の臨床実習への関与、貢献度を解析する。指導医の臨床実習に関わる実績と評価方法を開発し、指導医としての資格認定について検討する。

3) 海外における臨床実習指導医養成プログラム、資格認定制度確立についての調査研究

令和6年度のアメリカ国カリフォルニア大学サンフランシスコ校、カナダ国マギル大学の調査を基に、令和7年度には海外における指導医養成のプロセスを調査研究する。この目的のため、アメリカのトーマスジェファーソン大学医学部、医師国家試験委員会 (NBME)、

外国医学部出身医師教育委員会 (ECFMG)、国際医学教育研究財団 (FAIMER) を訪問し、アメリカの医学部におけるクリニカルクラークシップの内容、学生評価、指導医養成法などについて調査研究する。

4) 臨床実習指導医養成のあり方についての研究

診療参加型臨床実習のあり方、指導医のあり方について、臨床実習から臨床研修にシームレスな連携がとれるような方策を研究する。

臨床実習指導医を養成するために、診療参加型臨床実習の在り方、学生の評価、指導医養成法などに関する講習会をパイロット的に開催し、その成果と課題について研究を行う。臨床実習と臨床研修の指導医に対するインセンティブのあり方についても議論を進める。さらに、教員・指導医の臨床実習への参加度が実績として適正に評価されることを目的として、臨床実習の指導実績評価のための評価シートを作成する。

5) 研究成果の報告

以上の調査研究の成果を解析して報告書に取りまとめ、全国医学部、文部科学省、厚生労働省、関連教育施設等に配付する。また、公開国際シンポジウムを開催して、令和6年度と7年度の事業成果を報告し、診療参加型臨床実習および指導医養成のあり方について公開討論を行う。